

日本農芸化学会 2005 年度(平成 17 年度)大会

2005 年 3 月 30 日 札幌コンベクションセンターにて発表

SSR 分析を用いた丹波黒遺伝型検査方法の確立

○小阪 英樹, 畠中 知子¹, 曳野 亥三夫², 戸田 登志也(フジッコ、¹神戸大・農、²兵庫県立農林水産技術総合センター)

[目的] 極大粒黒ダイズである丹波黒は丹波地方を発祥地とする在来種であり、その遺伝的多様性についてはこれまで十分な検討がなされていない。近年、主要産地である兵庫県、京都府、岡山県などの農業機関で系統の管理が進む一方、中国をはじめとする海外産の丹波黒が市場に出回るようになってきている。本研究は、各主要産地で管理されている種子を丹波黒標準系統とし、これらの遺伝的多様性を解明すると共に、あるサンプルが国内産丹波黒標準系統の遺伝型と一致しているかどうかを判定する検査方法の確立を目的として行った。

[方法と結果] 種子管理が行われている国内産標準系統の丹波黒 13 サンプルについてダイズ SSR プライマー (Soybase, <http://soybase.agron.iastate.edu/ssr.html>) を 30 種類選択して PCR を行ったところ、標準系統は遺伝的に 5 系統に分かれた。次に種子管理状態が不明な丹波黒 (主に中国産) についても同様に分析したところ、標準系統とは異なる遺伝型が多数見られ、高い確率で丹波黒標準系統とは異なるものが含まれていることが分かった。現在は相違性だけでなく、丹波黒標準系統と同一であることを判定するのに必要なプライマーの種類と数の検討を行っている。